

## 〈デジタル技術の活用及びDX推進の取組状況〉

### 1.経営の方向性及びデジタル技術等の活用の方向性の決定

#### ① デジタル技術が社会や自社の競争環境にどのような影響を及ぼすか

##### 1.デジタル技術が社会や当社の競争環境に及ぼす影響

###### 1-1.社会へ及ぼす影響…ICT・AIの進歩

近年、ICT・AIが進歩し、遠隔地とのリアルタイム通信、ビッグデータの効率的な運用、AI利活用等が当たり前になってきました。

事業活動のグローバル化、新たなビジネスモデルの出現等、大きな社会変化をもたらすデジタル時代に突入しています。

###### 1-2.当社の競争環境に及ぼす影響…遠隔地との接続

ICTの進歩により、遠隔地とリアルタイムで通信・情報共有を行うことが可能となっています。

当社が製造する粉砕機は、世界中で採用いただいております。海外向けの事業活動も重要なものとなっています。

今後も、ICTの進歩とともに事業活動のグローバル化は進み、DX化は必要不可欠なものになっていくと認識しています。

#### ② ①を踏まえた経営ビジョンやビジネスモデル

##### 2.経営ビジョン

上記のようなデジタル時代への対応を踏まえ、当社は下記の「DXビジョン」を策定しました。

##### DXビジョン

私たちは、お客様に満足していただき、喜んでいただくことを第一の目的に、  
培ってきた技術・ノウハウとデジタル技術を活用して“本物の物造り”を実現し、  
新たな価値を体感できる製品開発を行っていきます。

### 2.経営及びデジタル技術等の活用の具体的な方策(戦略)の決定

#### ① 戦略

##### 3.戦略

DX経営ビジョン実現に向けて、製品開発のDX化、製造工程のDX化、会社全体のDX化に取り組んでいきます。また、デジタル人材の育成・獲得を並行して取り組みます。

製品開発のDX化

製造工程のDX化

会社全体のDX化

デジタル人材の育成・獲得

・製品開発の DX 化

会議システム・AI 等の活用

⇒取引先との円滑なコミュニケーション、製品開発の効率化

・製造工程の DX 化

モニタリングシステム等の活用

⇒製造工程の改善・最適化、生産性向上

・会社全体の DX 化

コミュニケーションツール等の活用

⇒社内情報共有の効率化

・デジタル人材の育成・獲得

DX 教育の実施

⇒研修受講等による DX 人材育成を実施し、適性等を考慮し、部門ごとに DX リーダーを選出

デジタルプロフェッショナル人材の獲得

⇒デジタル技術や DX 等に精通した人材の採用

3.戦略を効果的に進めるための体制の提示

① 社内体制

4.社内体制

DX 経営ビジョン実現に向けて、代表取締役 工藤 好功を CIO (最高情報責任者)とする下記の社内体制を構築します。

